

## 8 一署一品運動の取組みと国有林のPRについて

三戸営林署 ○生産係長 内野佳行  
事業所主任 坂下文明

### 1 はじめに

当署管内は、八戸市をはじめ10市町村におよび、青森県全体で見れば人口割合で25%、面積割合で13%となっている。

国有林所在地は、田子町・三戸町・新郷村の3町村だが流域単位とした林産業の活性化を目指している今日、地域における国有林の果たす役割や期待は大きなものがある。

林産業はもちろん地域のなかの一員として活性化に寄与するため各種イベントへ参加しながら国有林のPRを積極的に実行しようということで、署内で実行委員会を設立し、増収対策も含めながら森林教室や各種イベントへの参加、田子町立タプコブ創遊村への出品販売等に取り組んだ。

収入額を見るとまだまだ少ないが、今年度のイベントへの参加の様子とPR活動を発表する。

### 2 取組みの概要

先ず当署では各種イベントに対応するため、年度当初に実行委員会を発足し、各種イベントの出展品目等の計画を立てた。

それにより、

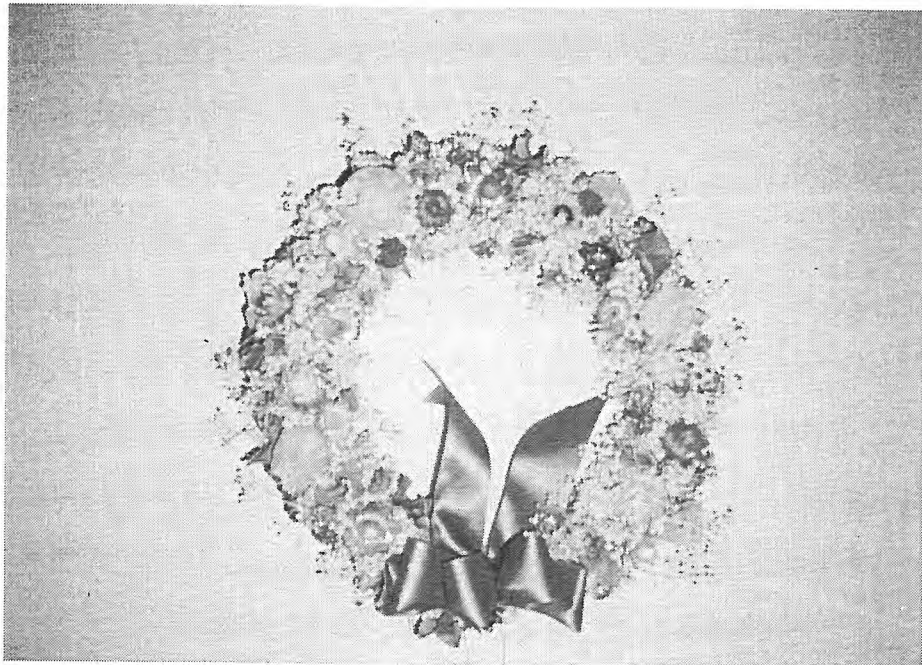
写 - 1 リースの写真

水ごけ・十和田砂等の採取の時期を設定し、更に出展品目のアイデアをつのった結果、他署に無いリース、壁飾り、エンピツ型アクセサリーの商品が誕生した。

8月には署内職員のほとんどが参加して「水ごけ・

十和田砂」の採取に取り組んだ。

ここで各製品ができるまでの過程を紹介する。水ごけ、十和田砂の採取の当日は辛い天気にも恵まれ、職員の中には朝早くから準備に取り組りかかっている人もみられ意気



込みの高さが伺われました。出発のまえには玄関前にて営林署長から「各人けがなど事故の無いように」との話のあつたあと2班に別れて各採取地に向かった。

水ごけの採取に当たっては昨年を経験を生かし30cmほど成長した水ごけの上半分だけを採取して、乾燥しても色が変わらないようにした。

十和田砂の採取では現地でふるいをかけ、粒の大きさを3段階に分け現地で袋詰めしました。このように今年度は各採取地でいろいろ工夫をこらし、効率や商品価値を上げる努力をした、

写 - 2 水ゴケ採取の様子

。十和田砂は鹿沼土のように鉢植えのさい一番底に入れる粒子の粗い砂の塊で、袋詰めをすればそのまま商品として出品出来ますが、水ごけは、水洗い、脱水、乾燥、袋詰め、の工程を経て製品となる。



次にリース、エンピツ型アクセサリーの作成は、我々の身近にあるものを集めて、現代の感覚やニーズにあったものという発想で取り組みました、こまかい作業で手間がかかったがイベント時の反響は大きく、営林署のお役所的イメージを変えた当署の代表的な商品となった。

また、現場にはイベントの都度、内容を報告したところ、いろいろアイデアをだしてもらったり、これは売れないだろうか？とケヤキの根株、ヤシャビシャク、山野草、一般材外のキハダの皮をを剥いたりして、何かと協力を得られた。

### 3 各イベントの参加状況

まず、4月29日の緑の日に行われた「八戸緑化まつり」は小雨まじりのあいにくの天気ながら人出は多く、売上も上がりました中でも、ドウタンツツジ、十和田砂、水ごけの販売が好調で、これはこのイベントの名のおりほとんどの客が盆栽や庭木を求める人であったため、これに関連する商品が良く売れたものと思われる、この関連外で売れた物はエンピツ型アクセサリーだった。

このイベントでは主催者側の客寄せの一つとして庭木の無料配付があった、当署からも営林局のご配慮でベニキリシマツツジ500本を提出し、署長も手渡しの一人として

活躍し、国有林のPRの一躍をになった。

9月の9日から11日には「田子町にんにくとべこまつり」が行われた。このイベントでは焼肉を

写 - 3 イベントの様子

中心としたもので、食料品関係の出店をした露店は好調だが木工品関係は不調だった。

来年度は「キノコ、木の実、ニンニク」等の食料品関係と合わせての出展がのぞまれる。

10月8日から9日はア

スパム青い海公園で「木とくらしのふれあい展」があった、このイベントは青森県内の各営林署が多数参加していますのでいろいろ参考になった。各署でもいろいろ思考をこらした作品の多いなか、他署と競合しない「リース類、壁飾り、水ごけ、ツルウメモドキ」が好調でした。開催中には青森県外からの観光客も多く、中には「青森名産とかの示があればいいのに」といつている人があり来年度の参考になった。

11月2日から4日は地元田子町で農業まつりがあった。会場は屋内だったが、周囲が展示品ばかりで即売コーナーがなかったため全般に期待より売上が上がらなかったがリース類が思ったより好調だった。

最後のイベントは12月3日から4日三戸町で地場産業展があり昨年の例から期待していたが悪天候のため期待を下回る売上だった。以上が今年度の各イベントの参加状況である。

その他イベント外での収入としては、田子町の協力で「町営タブコブ創遊村」という地場産品展示即売所に三戸営林署の一署一品コーナーを設けてもらい、コースタ、等の通年販売をしてもらった、コースターまた、営林署の裏にある駐車場脇に間伐材で小屋を作り、厚板等の販売もした。



次の表は各イベントごとの売上を表にまとめたものである。

表-1. イベントごとの売上

イ ベ ン ト 名	開 催 月 日	主 な 品 目	売 上 高
八 戸 緑 化 ま つ り	4 月 2 9 日	ケヤキ根株外	1 2 3, 4 0 0 円
ニンニクとべこまつり	9 月 9 ~ 1 1 日	リース 外	6 3, 5 0 0 円
木とくらしのふれあい展	1 0 月 8 ~ 9 日	キハダの皮外	2 6 8, 7 0 0 円
田 子 町 農 業 祭	1 1 月 2 ~ 4 日	リース 外	6 6, 2 0 0 円
三 戸 地 場 産 業 展	1 2 月 3 ~ 4 日	リース 外	6 9, 5 0 0 円
田 子 町 創 遊 村	6 月 ~ 1 2 月	コースター外	2 2 5, 5 4 0 円
署 で の 販 売	6 月 ~ 1 2 月	十和田砂 外	4 5 0, 5 0 0 円
計			1, 2 6 7, 3 4 0 円

一番下にあります署での販売の内訳は、ケヤキの根株、端材など単価の高い物販売したものです。

合計では126万7千340円となりました。

表-2 品別売上表

品目	数量	平均単価	売上額(円)
厚板	98	4,979	487,900
リース	155	1,002	155,300
ドライフラワー	194	199	38,700
水ゴケ	214	100	21,400
十和田砂	80	268	20,140
すりこぎ	15	1,107	16,600
軽石	20	1,055	21,100
キハダ皮	59	515	30,400
コースター	157	300	47,100
山野草	10	970	9,700
アクセサリ	247	200	49,400
壁飾り	28	904	25,300
さるのこしかけ	10	750	7,500
庭木	5	9,100	45,500
端材	158	1,568	247,800
その他	-	-	43,500
計			1,267,340

リース、ドライフラワー、水ごけ、十和田砂、コースター、壁飾り、の三戸営林署の代表的商品は数量はありますが単価が低く金額の割合は全体の25%位でした。

#### 4 各イベントへ参加しての効果

次に各イベントに参加して感じたことは様々な人達からたくさんの意見を聞くことが出来た。それは展示品だけでなく日頃の営林署の業務に対する意見や要望もあった。

展示品の中では特にリース類の関心が高く、その細工のこまさには多くの方からお褒めの言葉をいただいた。

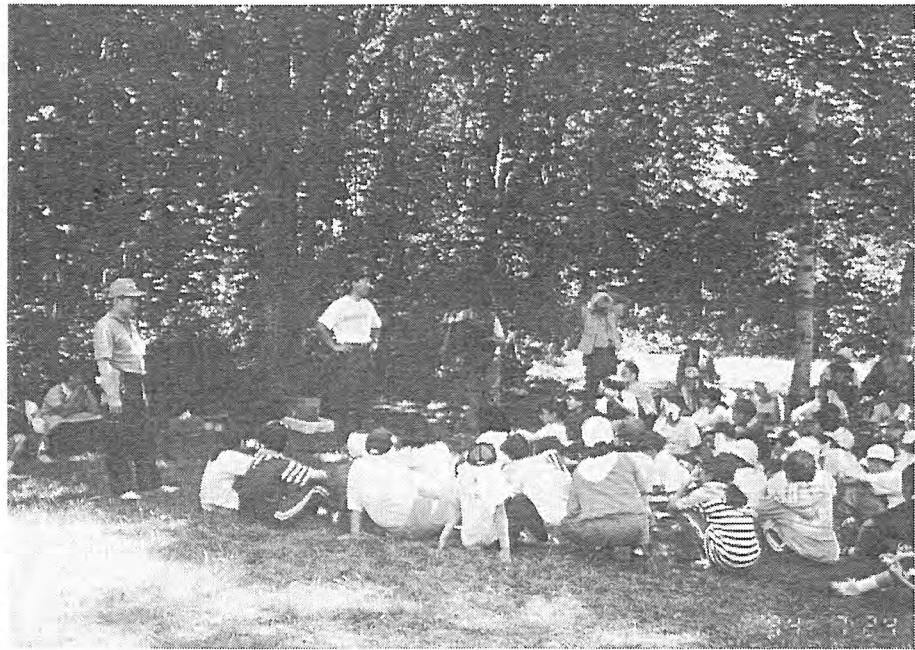
そのほか地元田子町でも町営タプコプ創遊村へ継続的に出展要請をされたし、参加各イベントも来年度の参加を強く要望され主催者側からも好評をばくした。

また、イベントを通じてたくさんの造園業者や木工所ともつながりができ、いろいろ情報や緑化木の販売、端材の中からの木工用材の販売が出来るようになり、これが前年度の3倍の増収となったものと思う。

以上のように様々な効果やメリットがあったがやはり特筆すべき点は営林署の存在を木材関係者以外の人々にアピールできたことだと思う。

それは森林教室や森林インストラクターの派遣要請が昨年より増えたことでもうかがえる。

写-4 森林教室の様子



#### 5 考察

一署一品運動では、国有林のPRを図りながら、署内の結束と増収を図り、なおかつ地域の活性化に寄与すべく、全署員を挙げ取り組んだ。今後も営林局、関係市町村、各団体、報道関係者と機会のあるたびに関係や連絡を積極的に行いパイプを太くする努力を続けていくことが大切と思う。

また、各種イベントでは、お客のおばあちゃんから「営林署が近になった」というお褒め言葉ももらった。

このような様々な励ましの言葉、助言を糧に、地域の中にけ込みその発展、活性化に貢献出来ればと考えている。